



Title	＜図書紹介＞『キリシタン司祭後藤ミゲルのラテン語の詩とその印刷者税所ミゲルをめぐって』
Author(s)	原田, 裕司
Citation	大阪大学言語文化学. 1998, 7, p. 229-231
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78078
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

原田裕司著『キリシタン司祭後藤ミゲルのラテン語の詩とその印刷者税所ミゲルをめぐって』、近代文芸社、1998年5月20日、100頁、1500円。
ISBN4-7733-6262-6 C0095

本書の執筆は、1621年マニラ刊行のキリスト教義書の中に印刷された「日本

人司祭ミゲル・ゴトーのラテン語の詩」に対して、同じ日本人でラテン語を愛する私が大きな関心を抱いたことから始まる。1926年の石田幹之助氏による言及からこの詩の存在を知った私は、上記教義書を蔵するスペインのエスコリアル修道院図書館に手紙を書き、「ミゲル・ゴトーのラテン語の詩」を含むページの写真を郵送してもらった。本書の第1章では、これまでのキリシタン研究では知られていなかったこの詩を紹介した上で、それがラテン語の詩として極めて洗練されたものであることを確認した。さらにこの詩の作者である「ミゲル・ゴトー」は、1618年にマニラで司祭に叙階され帰国後背教して転びバテレンとなった後藤ミゲル了順であると推定した。そしてマニラ渡航以前の彼が日本で受けたラテン語教育が、詩作の練習をも含む極めて高度なものであることを確認した。後藤ミゲル了順がマニラでラテン語の詩を書いたことは、これまでのキリシタン研究では一切言及されておらず、彼の詩作は日本人のラテン語受容という観点からも極めて興味深い出来事である。

本書の第2章では、後藤ミゲルの詩を含む上記教義書の印刷者として名が挙がっている日本人「ミゲル・サイショ」の身元を追究した。1926年にこの人物に初めて言及した石田幹之助氏も、また1942年の幸田成友氏も、ミゲル・サイショの出自が全く分からないことを嘆いている。私は、1608年に薩摩で殉教したキリシタン武士税所（さいしょ）レオン七右衛門にミゲルという霊名の息子がいたことに注目して、九州へ調査旅行を行なった。その結果1984年に税所家系譜を発見した都城の史家児玉三郎氏の研究にもとづき、殉教者レオン七右衛門敦朝とその次男ミゲル敦吉の姓が実際に税所であることを確認した。私はこの税所ミゲル敦吉こそ、後フィリピンに渡って上記の教義書を印刷したミゲル・サイショであると推定するが、このことは従来の研究では全く指摘されていないことである。現在のところ上記の1621年マニラ刊行の教義書と1618年バコロール（マニラ近郊）刊行の殉教伝に印刷者としてミゲル・サイショの名が挙がっている以外に、このことを証明する史料は得られていない。しかし本書では少なくとも今の段階でこの推定を否定する材料が見当たらないことを示したつもりである。

本書の最後には、1997年11月に都城島津家当主島津久厚氏の許可を得て同家所蔵の税所家系譜を写真撮影すべく同地を訪れた際の旅行記を付け加えた。薩摩最初の殉教者税所レオン七右衛門が出身地の都城と殉教地の川内（せんだい）で今なおカトリック信者の模範として生き続けていること、また彼の息子税所ミゲル敦吉の晩年の地高岡を訪れたことも書き記した。なお図版・写真の一覧を含む

本書の目次は次のとおりである。(原田裕司)

[本書の目次]

はじめに

第1章 17世紀初頭にマニラでラテン語の詩を書いた日本人司祭後藤ミゲル

- 1 「ミゲル・ゴトーのラテン語の詩」についての石田幹之助氏の言及
- 2 ミゲル・ゴトーのラテン語の詩
- 3 ラテン詩人ミゲル・ゴトーと転びバタレン後藤ミゲル了順
- 4 後藤ミゲルが受けたラテン語教育 (1)就学の時期 (2)八良尾、有家、長崎のセミナリヨにおけるラテン語教育と詩作の練習 (3)長崎の教区大神学校における勉学とバレト師編纂『聖教精華』

第2章 後藤ミゲルのラテン語の詩をマニラで印刷した日本人税所ミゲル

- 1 「ミゲル・サイショ」についての石田幹之助氏の言及
- 2 薩摩最初の殉教者税所レオン七右衛門敦朝とその次男ミゲル
- 3 都城の税所家系譜が伝える税所ミゲル敦吉の生涯
- 4 長崎とフィリピンにおける税所ミゲルについての仮想
- 5 税所ミゲル敦吉の「帰国」とその後

むすびに

注・参考文献・あとがき

川内、都城、高岡を訪れて (1997年11月)

ラテン語要約 *De vita utriusque Michaelis Iaponis, unius qui saeculo XVII versus scripsit Latinos, et alterius qui tum eos typis mandavit in libro Manilae edito.*

図版・写真 (1)1621年マニラ版教義書の表題頁 (2)1621年マニラ版教義書の第22頁(ミゲル・ゴトーのラテン語の詩) (3)後藤了順署名のキリシタン転び証文(長崎・西勝寺蔵) (4)1618年バコロール版殉教伝の表題頁 (5)1618年バコロール版殉教伝の巻末刊記 (6)税所レオン殉教像(川内カトリック教会ヨハン・レヒナ神父作) (7)ドミニコ会京泊教会跡(鹿児島県川内市) (8)税所家系譜原本(都城島津家蔵) (9)税所家系譜と各人の略歴 (10)税所レオン木像(都城カトリック教会)